



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第68号

2014年3月3日

平成26年度年次総会概要決まる

被災地の“今”から考える社叢復興への方策

6/21・22に竹駒神社(宮城県岩沼市)で

今年の年次総会・研究発表会・シンポジウムを6月22日(日)に竹駒神社(岩沼市)で開催する。東日本大震災から3年が過ぎた被災地で、今だからこそ見えてきた問題点や課題の解決に向けて、事例報告も含めたシンポジウムで論議を深める。

総会に先立つ21日(土)の見学会では、防災歌枕として注目を浴びている「末の松山」「沖の石」や、かねてより当学会が社叢復興のために土壌改良を実施し、経過観察を続けている狐塚や八重垣神社など、仙台平野の社叢を訪れる。見学会後に竹駒神社で正式参拝、懇親会を開催する。

さらに、23日には岩手県山田町で高台に新社殿を創建した大杉神社で祈念植樹をした後、リアス式海岸部の現況を見学する。また24日には、仙台市中心部から車で30分ほどの大國神社の山野草公園を散策する。ここは6月に及ぶ雑木林を整備したもので、100種以上の山野草を見ることができる。

6月21日(土) 見学会:末の松山と仙台平野

10:00	JR仙石線 多賀城駅集合
10:00~11:00	「末の松山」「沖の石」見学
13:30~16:30	富主姫神社・狐塚・八重垣神社・山王宮等見学
16:30~17:00	竹駒神社正式参拝
17:00~19:00	懇親会(於:竹駒神社参集殿)

6月22日(日)

10:30~13:00	年次総会・研究発表会
13:45~16:45	シンポジウム「社叢復興に向けて」 基調講演:中静透・東北大学教授 パネルディスカッション
17:11	岩沼駅発⇒仙台⇒盛岡(18:59)⇒宮古(21:27)

6月23日(月):大杉神社祈念植樹と見学会

10:00~11:00	大杉神社参拝と祈念植樹
11:00~15:30	被災地リアス式海岸部見学
15:30	JR宮古駅解散(15:52 宮古駅発⇒盛岡(18:00)⇒仙台(18:53)着)

6月24日(火):大國神社野草公園見学会

9:00	仙台駅前集合
9:30~11:30	大國神社野草公園見学
12:00	仙台駅前解



見学会 鞍馬寺とモミ・ツガ天然林～貴船神社

講師：曾根 祥子(鞍馬寺霊宝館学芸員)
コーディネータ：渡辺 弘之(社叢学会理事・京都大学名誉教授)

11月の定例研究会は、紅葉もほぼ終わった鞍馬寺から貴船神社に抜けるハイキングコースを、モミ・ツガ天然林等を観察しながら踏査した。鞍馬山は標高584mで、



山頂は国有林。鞍馬寺は貴船川に達する42万㎡の境内を有している。

多湿で暖地性の植物の種類が多く、40年前の調査ではあるが、シ

ダ以上の植物が1,000種、鳥類が100種、菌類が300種確認されている。

快晴ながらピリリと冷え込んだこの日、10時に鞍馬駅で集合、大きな天狗の面に出迎えられ、まずは鞍馬寺に。朱塗りの仁王門をくぐり、本堂をめざして参道をたどると、「鞍馬の火祭」で有名な由岐神社に達する。ここは豊臣秀吉の信仰も篤く、慶長12年には豊臣秀頼が本殿と拝殿を再建したが、この拝殿は左右非対称の間に通路をとった割拝殿という珍しいもので、桃山時代の代表的建造物として国の重要文化財にも指定されている。

渡辺理事から参道にある植物の説明を受けながら、『枕草子』で「遠くて近きもの」とされた九十九折の坂道を登っていくと、ようやく鞍馬寺本堂に達する。本堂前のパワースポットは650万年前に金星から天狗が降り立った場所と伝えられ、パワーをいただくために参拝者が長い行列を作っている。

参拝の後、講堂で霊宝館学芸員の曾根祥子氏から鞍馬寺の歴史と自然観について聞いた。

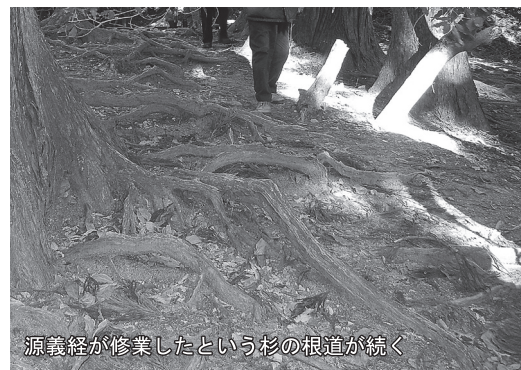
鞍馬寺は770(宝亀1)年に鑑真和上の8人の高弟の中で最年少の鑑禎上人が毘沙門天を本尊として安置したのが始まりとされ、平安時代には京都の北方守護の寺として信仰を集めた。

12世紀以降、長く天台宗の寺院であったが、戦後、毘沙門天王、千手観世音菩薩、護法魔王尊(=山神：鞍馬天狗)



本堂前のパワースポット

の三身一体を「尊天」として信仰する鞍馬弘教の総本山となった。尊天は神仏を超えた存在として宇宙のエネルギーが現れ出したものであり、鞍馬寺はこのエネルギーをいただき、元気になるための、心身蘇りの寺であると考えられている。自然は森羅万象の全てであり、全てがつながり響きあっているととらえており、これ



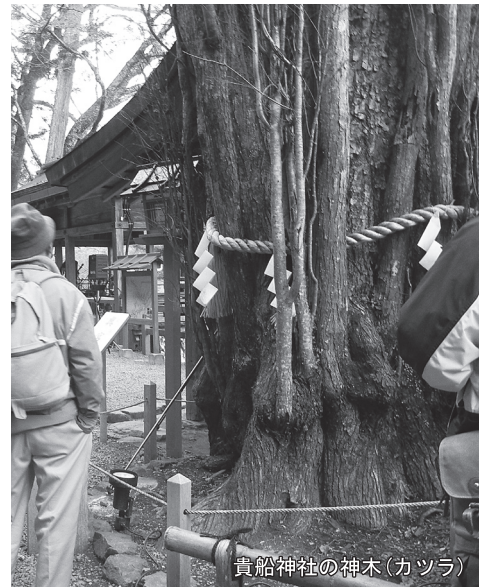
源義経が修業したという杉の根道が続く

が目に見える形として表現されているのが仏像を飾る羅網(らもう)だ。装飾の菱形の飾り一つ一つが上下左右で互いに結ばれた生命で、

一つを揺るとつながった全てが共鳴する。正に森羅万象が一つになって響きあう時空を超えた無限の世界を表している。それだけに一枝一葉に至るまでおろそかには扱わないという姿勢は徹底している。こうした中で、新しい試みも始まっている。牛若丸が跳躍の練習をしたという言い伝えがある木の根道は、岩盤が地表近くまで迫っているために根が地中深く入り込むことが出来ず、スギの根が地表に露出した状態になっている。そこで、参拝者によって根を踏まれることによる木の傷みを防ぐため、山内の落葉を集め、根本に散布して根の保護を図っている。

動植物や鉱物の標本と寺宝を収蔵展示し、毘沙門天像(国宝)などの仏像を奉安する「鞍馬山霊宝殿」を見学した後、貴船神社への山道に入った。

鞍馬天狗が牛若丸と出会ったという僧正ヶ谷不動堂、木の根道、モミツガ天然林、奥の院魔王堂を経て、約1時間で貴船神社に到着。神木のカツラや奥宮の船形石などを見学し、1日の行程を終えた。



貴船神社の神木(カツラ)



正倉院御物の中の香と薬

講 師：米田 該典(大阪大学医学資料室)
コメンテータ：渡辺 弘之(社叢学会理事・京都大学名誉教授)

正倉院御物とは 正倉院は756(天平勝宝8)年、光明皇太后が聖武天皇の七七忌の忌日に際して、天皇遺愛の品6百数十点と薬物60種を東大寺の廬舎那仏(大仏)に奉獻したのが始まり。その後も皇后の奉獻は何回かあり、東大寺の正倉(現在の正倉院宝庫)に収蔵し、永く保存されることとなった。目録である東大寺献物帳には国家珍宝帳、種々薬帳などがあり、後から書き加えたり、消したりできないように玉璽がびっしりと捺された上に記入されている。

正倉院は、北倉(ほくそう)、中倉(ちゅうそう)、南倉(なんそう)に分かれ、聖武天皇・光明皇后ゆかりの品は北倉収められていた。御物は末永く保存すべき官物と消費すべき資材に分かれている。薬などは後者にあたり、必要に応じて出庫されていたことも目録などの記録からわかるようになっていく。

シルクロードの終着点? 収められた薬について言えば、インド・インドネシアからモンゴル・中東に至る地域から集められたものだが、宝物の多くには日本の素材が含まれており95%は日本で作られたものと考えられる。ロマンを壊して申し訳ないが、シルクロードの云々は言い過ぎであろう。とはいっても、8世紀半ばに中東に至る地域から物品を集めてくる力を持っていたわけであり、これについては評価に値するだろう。しかも、薬などは原料となる乾燥した薬草の形で納められているが、目録の種々薬帳によると、当初には400~500kgもあったことがわかる。今も20kgばかり残っているが、いかに大量に収蔵していたか、これにも感心させられる。正倉が正に倉庫として機能してきたことを物語っている。

宝物の中には螺鈿細工を施した合子があるが、これも日本産の素材が使われており、国産と思われる。しかし、国内にある鋸ではどうしても薄片にした貝を切って細工することができず、復元できないでいた。ところがある時、タイの奥地で刃がこぼれたような糸鋸を使って薄い貝を加工しているところを見つけた。技術と共に道具も伝えられたのであろう。

校倉について これらの宝物は長く校倉造の正倉院で保存されてきたのだが、校倉造りは東南アジアによく見られる建築様式だ。今でこそ国宝として大切に

にされているが、戦後の混乱期だと思われるが、あきらかに床下でたき火をした痕跡があったり、ネズミやへびなどの小動物の死骸などが確認されるなど、宝物保存に対して完璧な倉庫であったとは言い難い。校倉は、湿度による木材の膨張収縮によって倉庫内の環境が一定に保たれ、宝物の保存を可能にしたといわれてきたが、そうではなく、全く光が入らないために日光による劣化がなかったこと、また害虫などが入っても世代交代ができず、大量発生には結びつかなかったことが、宝物を守る上で大きな役割を果たしたのだろう。現在、全ての宝物は空調の整った鉄筋コンクリート造りの宝庫に移されている。

蘭奢待とは さて、宝物の中でもっとも有名なものは黄熟香(おうじゅくこう)(=蘭奢待:らんじゃたい)であろう。これは、長さ156cmもある大きな香木で、天下第一の名香と謳われ、足利義満や織田信長、明治天皇など、時の権力者が切り取らせたとされている。同じく名香として珍重される全浅香(ぜんせんこう)は国家珍宝帳に記載があるのだが、蘭奢待については記載がなく、正倉院におさめられた経緯が明らかでない。

黄熟香の原木は東南アジアに産するジンチョウゲ科のジコウジュで、幹に沈滞した樹脂を含めた材を香木として用いたもの。沈香とも言われる。蘭奢待の来歴を知るために、化学分析を行ったところ、ベトナムを始めとするインドシナ半島、特にラオスで産するものに由来すると思われる結果が出た。さらにこれを実証するために、ラオスでの実地調査を行ったところ、中部の東部山稜地帯に産する沈香は形状も、化学分析パターンも非常に近似していることがわかった。さらに現地調査を実施し、地域を断定したいと考えているが、付近は地雷原であり、安全上の問題があることから現地調査ができていない。

90年に大阪で開催された「国際花と緑の万国博覧会」において、沈香を展示するために20mにもなる高木を採取したが、残念ながら長すぎて運搬ができず、半分ほどに切って移植したが、やはり枯れてしまった。この樹木は必ず樹脂を持っていると確信していたので、入手しようとしたのだが、いち早く焼却処分されてしまっていた。返す返すも残念である。

次回予告【第60回関西定例研究会】

- ◆日 時：3月22日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：伏見稻荷大社儀式殿(伏見区藪之内町68)
- ◆テーマ：どろくつつあん・またげ石・子安の石—水田開発技術を持った氏族と石神—
- ◆話題提供：中村 治(大阪府立大学人間社会学部教授)

事務局から

- 先日の大雪につきまして、会員の皆さまにおかれましては被害はございませんでしたでしょうか？ 交通機関の途絶や道路の不通など、様々なご不便、お見舞い申し上げます。
- 年次総会は別記の通りです。東日本大震災発生直後から、いつか東北で年次総会を開催したいという思いがようやく叶いました。あの日、整然とした水田が黒い津波におおわれていく画像を息を呑みながらご覧になったかと存じます。3年がたち、被災地では地域再生に向けての模索が続いています。見学会でその現状をご覧になっていただき、シンポジウムでの議論を深めて下さい。また引き続き、研究発表も募集しています。こちらも奮ってご応募ください。
- 大杉神社は、平野部にあった鎮座地が津波にのみこまれ、氏地は高台移転や地盤の嵩上げなど、大規模な区画整備事業が続いております。そうした中で、境内地を見晴らす高台にこじんまりとした新社殿を創建されました。ここに豊かな社叢を祈念して植樹を実施いたします。ぜひ、ご参加ください。また、リアス式海岸部は浦々で被災状況や復興状況が異なり、考えさせられることの多い地域です。仙台平野とは全く異なった被災地の現況をぜひご覧ください。

- 大國神社野草公園はカタクリの群生地として有名です。6月末にはカタクリは終わっていますが、四季を通して様々な山野草が花を咲かせています。こちらもぜひ、ご参加ください。
- 会誌『社叢研究』第12号を同封いたしました。総会シンポジウムの記録では、神宮のご社殿新築や調度新調の一端が見える貴重な写真もご提供いただきました。ご一読ください。
- ある会員の方から、『鎮座百年記念 第二次明治神宮境内総合調査報告書』をご寄贈いただきました。植物、菌類、動物を網羅した詳細な調査記録です。社叢学会にとりましては正に必携の書籍、ありがとうございました。

編集後記

まおちゃん、さらちゃん残念だったなあ。。。ひょっとしてビビリッシモ？ タイドの悪いM理事のつよ〜〜い心臓を見習ってほしいものである！ どんなんにお尻を蹴っ飛ばしても動かぬこと山の如し。ま、見てくれからしてどっしりなんだけどね。とはいえ、あんなおっさん (!!)の爪のアカなんて見とおもない！ ですよ。

首をろくろっ首より長くして原稿を待っていると、会員のHさんから山で作られたという八朔がどっさり到来！ 風邪よけのビタミン補給にあったか〜〜いお心遣い。うれしいなあ。いやあ、役得役得！ (藤岡 郁)

次回予告【第60回関東定例研究会】

- ◆日 時：5月17日(土) 14:00~17:00 ←開催日にご注意ください！
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念1号館 教室未定
- ◆テ マ：東北被災地の芸能復活とその後(仮)
- ◆講 師：久保田 裕道(東京文化財研究所)

研究発表者募集！

テ マ：社叢に関する理論的研究
社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究
発表時間：20分(報告15分+討論5分)
応募締切：2014年3月末日必着
応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300~400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

- * 応募者多数の場合は担当理事で協議し、4月中旬までに諾否をお知らせいたします。
- * 発表者は、発表当日に配布する資料を4月末までに本部事務局にお送り下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com

(当面、このアドレスでお願いいたします)